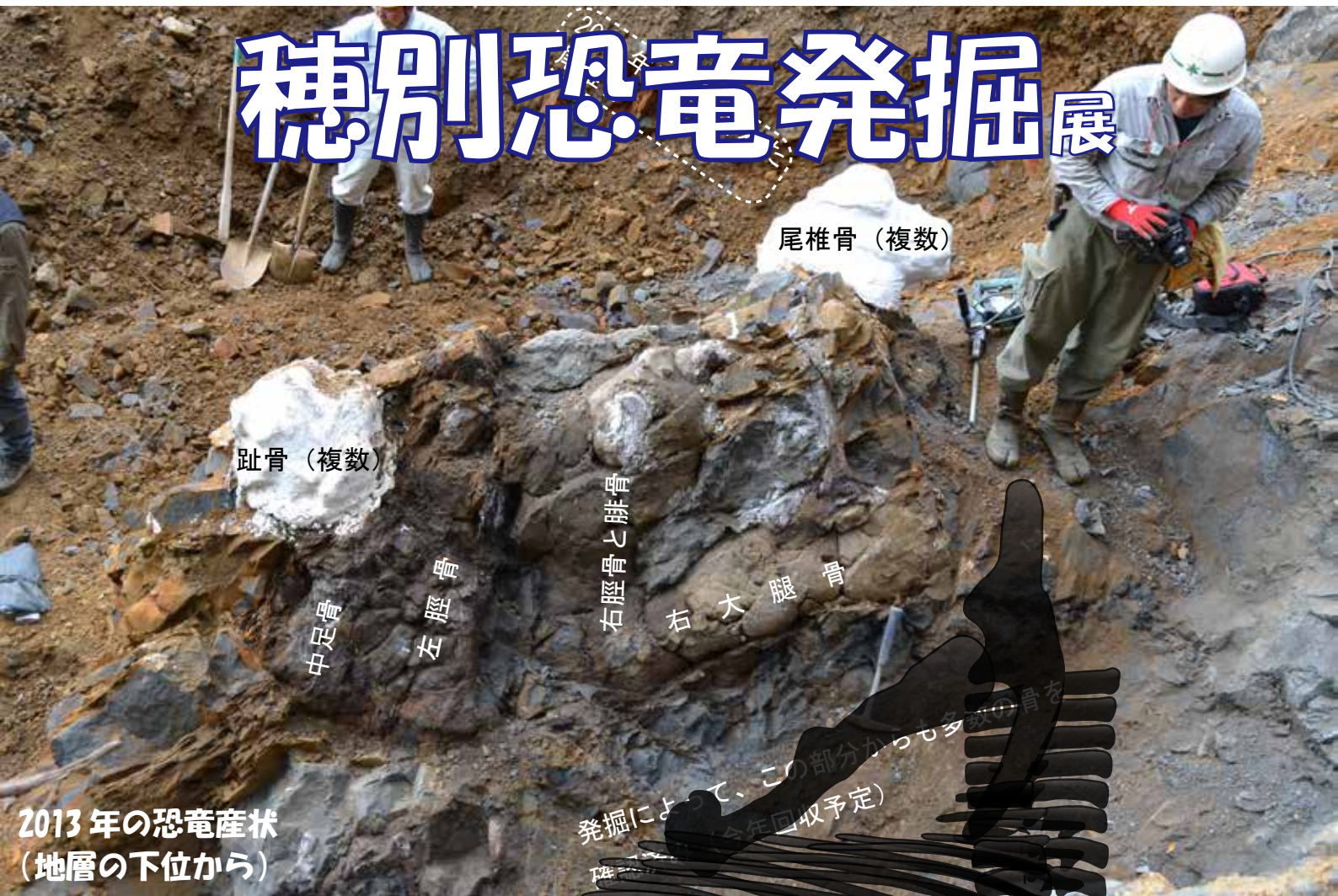
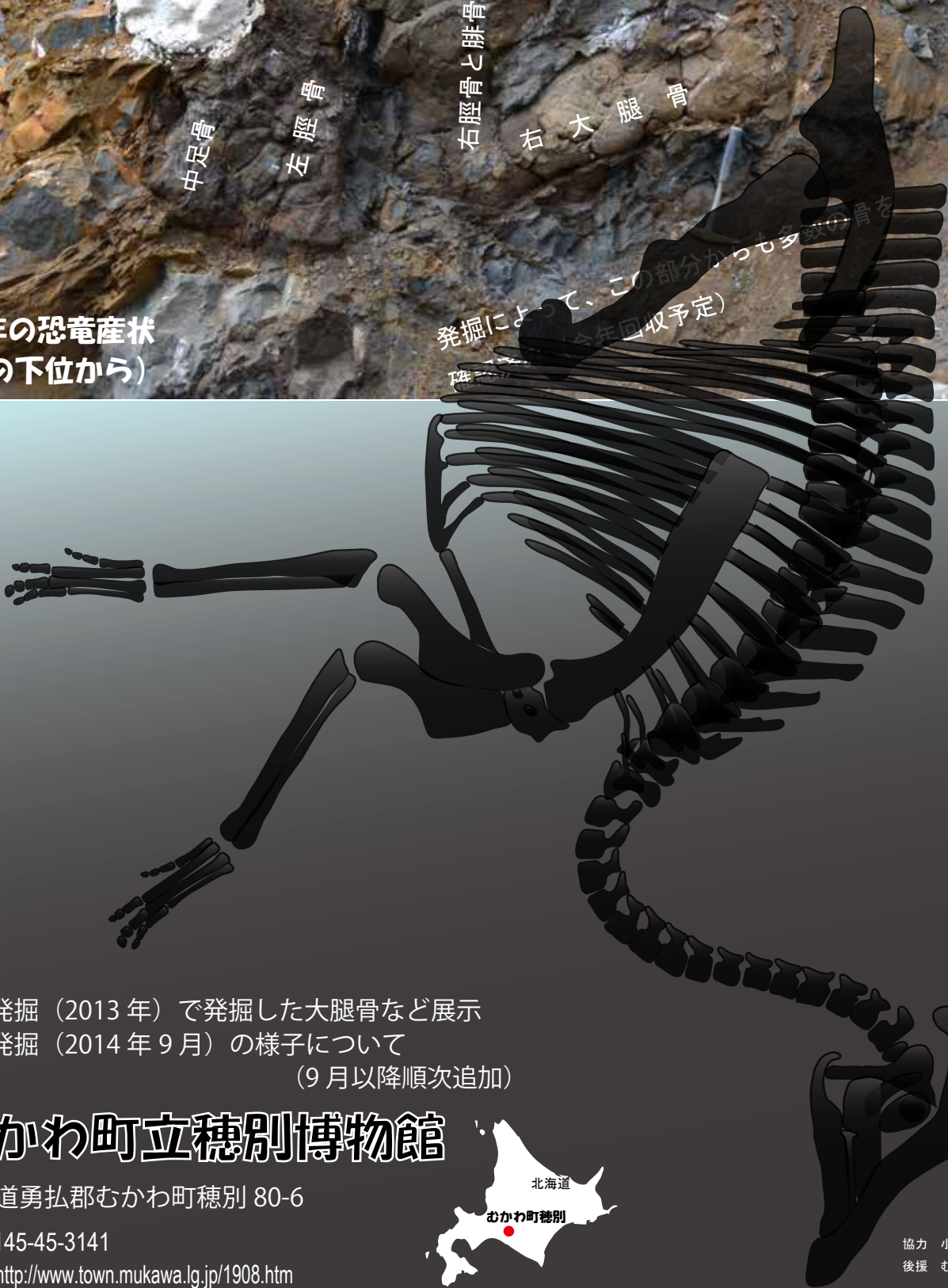


種別恐竜発掘展



2013年の恐竜産状 (地層の下位から)

まだ埋まっているところ
考えられる部分



(骨格図は同じハドロサウルス科のオロロティタン)

第一次発掘 (2013年) で発掘した大腿骨など展示
第二次発掘 (2014年9月) の様子について
(9月以降順次追加)

むかわ町立穂別博物館

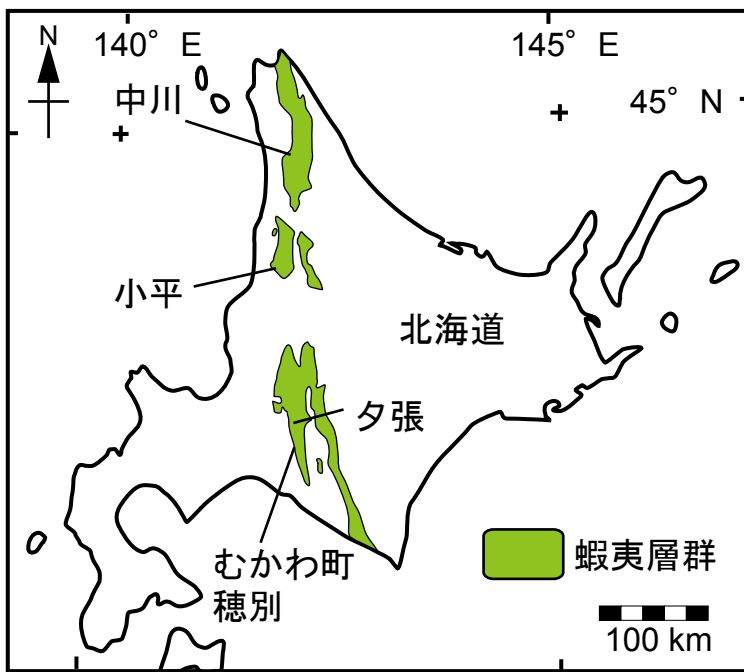
北海道勇払郡むかわ町穂別 80-6

Tel 0145-45-3141

HP: <http://www.town.mukawa.lg.jp/1908.htm>



協力 小林快次 (北海道大学総合博物館)
後援 むかわ町立穂別博物館協力会

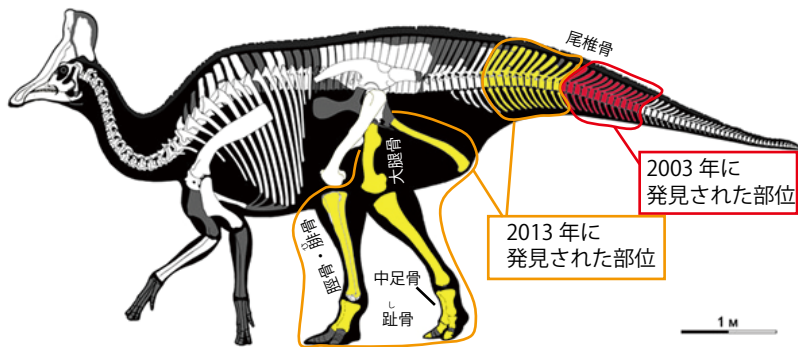


蝦夷層群の分布域と恐竜産地



首長竜 ホベツアラキリュウの全身復元模型（穂別博物館）

北海道中軸部の宗谷岬から浦河にかけて分布する蝦夷層群^{えぞそうぐん}は、主に白亜紀^{こせいぶつ}の海で堆積した地層で、特に後期白亜紀（約9,900万年から6,600万年前）の海生（海にすんでいた）古生物の首長竜やアンモナイトが産することで、とても有名です。むかわ町穂別地区（旧穂別町）でも体長8メートルの首長竜；ホベツアラキリュウ（愛称ホッピー）が1975年に発見され、穂別博物館に展示されています。これらは、恐竜時代の生き物ですが、蝦夷層群はほとんどが海でたまった地層なので、陸生（陸で生きていた）の恐竜化石の産出は極めて稀です。これまでに、北海道から恐竜化石は中川町、小平町、夕張市のそれぞれ1個体しか産していませんでした。また、それらは断片的な化石で、恐竜の全体像が分かるものは産していませんでした。

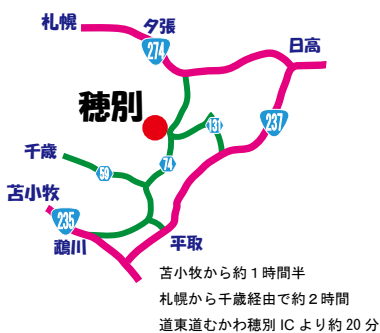


これまで確認された穂別産の恐竜化石のおおよその部位（図はロシアのオロロティタンの骨格を使用）

2003年に旧穂別町に在住のコレクターが穂別博物館に寄贈した化石は、正体不明の化石として収蔵されていましたが、化石の表面の余分な岩石を取り除く作業を約2年間おこなったところ、ハドロサウルス科恐竜の尾椎骨（尾の骨）であることが分かりました。この尾椎骨が埋蔵していた地層の追加発掘を穂別博物館と北海道大学で2013年の9月～10月にかけておこなったところ、北海道では初めての恐竜の全身骨格が埋蔵している可能性が極めて高いことが分かりました。2013年の第一次発掘では、全身の3割程度を発掘しました。2014年以降も発掘作業を継続していく予定です。

この標本は全身の骨格が保存されていると考えられているので、北海道をはじめ、日本が世界に誇る恐竜化石として知られるようになるだろうと考えられています。

穂別博物館アクセス



穂別博物館ご利用案内

- 開館時間 9：30～17：00（最終入館 16：30）
- 休館日 月曜日・祝日の翌日・年末年始（7・8月は無休）
- 入館料 個人 / 小～高校生：100円
大人 300円
- 団体 / 小～高校生：50円
大人 200円
- ※団体は10人以上 ※小学生未満は無料